
俺は人殺し

桂 ヒナギク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は人殺し

【Nコード】

N4604C

【作者名】

桂 ヒナギク

【あらすじ】

ある日、主人公の北岡秀はしてはいけない事をしてしまい、少年院へと収容されて・・・。

(前書き)

読み逃げ禁止です

俺こと北岡^{きたおか} 秀は今、練馬少年院の牢屋の中にいる。俺の身に何が遭ったのか。これからそれを話すでしょう……。

あれは、8月半ばの事。俺の幼馴染みで彼女でもある南岡^{みなみおか} 楓は、俺の親父と再婚をして俺の新しい母親に成った。だが、まさかあんな事になるとは、夢にも思っていなかった。

その日、俺がバイトから帰宅すると、リビングで親父と楓が楽しそうに話していた。親父と楓は俺に気付くと、

「お帰り」

と声を揃えて言う。

「ただいま。てか楓、来てるんなら連絡くらいくれよ」

「秀、母さんに向かって楓とは何だ!？」

「あ？」

俺は目を点にし、疑問符を頭に浮かべた。

「母さん、ってどう言う事？」

「実は、前から言おうと思ってた事が有ったんだがな、父さん再婚しようと思ってたんだ。で、今日正式に楓と結婚した。だから、楓はお前の新しい母親だ」

「ごめん、秀。私もね、言おう言おうと思ってたんだよ。夏休みに入って、秀がバイト始めたでしょ？そしたら、私達会う回数減ったじゃない？それで、少しでも癒しにならないかって、出会い系を始めたの。で、ある日男の人から逢わないかとメールが有って、逢いに言ったわ。それが秀のお父さんだった訳。それから私達は何度かデートして、お互い恋をしてしまったの。そしたら、秀のお父さんが言ったわ。『結婚しないか』って……。秀の事もあるし、私なりに色々考えた。そして、考えた末出した答えは、『はい』だった。

「・・・と言つ訳だから、今日から私は秀のお義母^{かあ}さん。宜しくね」
この時、俺の中の何かがブチ切れた。

「ふざけるな・・・」

俺は俯き加減に涙を流してそう呟いた。

「秀？」

「何で・・・何で話してくれなかったんだよ！？お前言っただろ！
小さい時、俺の嫁に成るって！あれは・・・あれは嘘だったのか！
？」

「秀・・・」

「もう良いつ、俺は出て行く！」

俺はそう言つて家を跡にした。

「秀！」

と、楓が呼び止めた気がしたが俺は無視した。

夕暮れ時、俺は途方に暮れながら町中を彷徨い、とある河原へと
やつて来た。

女つてのは、何で16で結婚が出来んだよ・・・。

「クソ！」

俺は石を拾い、川に向かって投げた。石は水の上を数回跳ねて進
み、数メートル行つた所でポチャンと沈んだ。

「秀！」

と、追つて来た楓が俺を見付け、河原へと降りて来た。

「秀つてさ、落ち込んだ時とか、良く此处に来るよね・・・」

「・・・さい」

「えっ？」

「五月蠅えつて言つてんだよ！」

怒りを露わにした俺は、物凄い形相で楓を睨み付けた。

「どうしたの秀、そんなに怒つて？」

「これが怒らずにいられるかよ！？」

俺は楓を突き飛ばし、仰向けに倒した。

「一寸、秀？ 幾ら難でもこんな所でそんな事しちゃ・・・」

俺は楓を睨んだまま、彼女の上に跨った。

「俺はお前を許さない。俺に内緒で他の男とデートして挙げ句の果てには結婚かよ！？ ふざけんじゃねえよ！」

俺は傍らに在ったテニスボールくらいの大きさの石を拾い上げ、

「お前なんか・・・お前の顔なんかもう見たくも無え！」

と、手にした石を楓の頭目掛けて振り下ろした。

「やめて秀！」

だが時既に遅し。楓の頭には一発目の攻撃が加わっていた。

「死ねえっ、お前なんか死ねえ！」

俺は怒りを込めて二度目の攻撃をした。そして三度、四度と、幾度と無く石を楓の頭にぶつけて行く俺。最初の方は、楓も必死に為って止めてや助けて等、大声で叫んでいたが、次第に楓は声を出さなく為って、ついには意識を失った。

「楓・・・？」

俺は楓を殴っていた手を止め、石を捨てて楓を揺すった。だが、

楓はピクリとも動かない。

「冗談だろ楓？ なあ、冗談だよな！？」

俺は楓の呼吸を確かめるが、息をしていなかった。

「楓、起きろよ楓！ 俺が悪かった！ 謝るから目を開けてくれ！」

と、そこへ見知らぬオバサンと交番のお巡りさんがやって来て、

「あいつですっ、あいつが人を！」

オバサンは俺を指差してお巡りさんに言った。お巡りさんは俺の下へ駆け足で来ると、俺の両手に手錠を掛けた。

で、今に至る訳だ。そう言えばもう直ぐ、楓のお葬式だ。俺は扉を叩き、覗き窓から看守に声を掛ける。

「なあ、俺を出してくれないか？ もう直ぐ楓の葬式があるんだ。出

席さしてくれよ」

「駄目だ！良いか、お前は犯罪者なんだぞ！？犯罪者は罪を償うまで出してはいけなと決まっているんだ！解ったら静かにして貰おうか」

だよな。そりやそうだわ。何であんな事、しちゃったんだろうな？俺はもう、生きていても仕方がない。此処から出られないくらいならせめて、せめて楓の所に・・・。

俺はその日、看守の目を盗んで首吊り自殺をした。自分の服を紐状にして・・・。

（後書き）

読み逃げしねえでちゃんと感想書け！これは命令だ！B Y・北岡 秀

北岡君に代わってお詫び申し上げます。最後まで読んで頂き有り難う御座いました。感想の方お待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4604c/>

俺は人殺し

2010年11月3日02時01分発行